

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号

特許第7186552号

(P7186552)

(45)発行日 令和4年12月9日(2022.12.9)

(24)登録日 令和4年12月1日(2022.12.1)

(51)国際特許分類

A 4 7 K 4/00 (2006.01)

F I

A 4 7 K 4/00

請求項の数 2 (全13頁)

(21)出願番号	特願2018-163351(P2018-163351)	(73)特許権者	504163612
(22)出願日	平成30年8月31日(2018.8.31)		株式会社 L I X I L
(65)公開番号	特開2020-32113(P2020-32113A)		東京都品川区西品川一丁目1番1号 大
(43)公開日	令和2年3月5日(2020.3.5)		崎ガーデンタワー
審査請求日	令和3年6月23日(2021.6.23)	(74)代理人	100106909
			弁理士 棚井 澄雄
		(74)代理人	100161506
			弁理士 川淵 健一
		(74)代理人	100169764
			弁理士 清水 雄一郎
		(72)発明者	吉原 新一朗
			東京都江東区大島二丁目1番1号 株式
			会社 L I X I L 内
		(72)発明者	西澤 研一
			東京都江東区大島二丁目1番1号 株式
			最終頁に続く

(54)【発明の名称】 浴室カウンター

(57)【特許請求の範囲】

【請求項1】

カウンター本体に物品を載置可能な載置面を備えた浴室カウンターであって、
前記載置面内に排水孔が形成され、
前記カウンター本体の周縁部から前記排水孔に向かって前記載置面が下り傾斜しており、
壁面に取り付けられた状態で、前記カウンター本体の周縁部の頂部が水平に保持されて
おり、

前記カウンター本体が前記壁面に対して着脱可能に構成され、

浴室内に、前記排水孔と嵌合可能に構成されたブラケットを備えていることを特徴とす
る浴室カウンター。

【請求項2】

前記ブラケットは前記壁面に設けられ、前記載置面が上方に向いた使用状態で前記カウ
ンター本体を支持可能に構成されている請求項1に記載の浴室カウンター。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、浴室カウンターに関する。

【背景技術】

【0002】

従来、浴室内の壁面には、石鹸、洗面器等、浴室で使用する物品を載置する浴室カウ

ターが取り付けられている。例えば、シャワーや蛇口等の吐水装置の下方に浴室カウンターが設けられ、カウンター本体の載置面上に石鹸、シャンプー、洗面器等を載置して使用する場合がある。

【 0 0 0 3 】

このような浴室カウンターは載置面上に水がかかるため、載置面が手前側（使用者側）または奥側（壁面側）に傾斜するように配設し、載置面上の水を排水するようにしていた。

【先行技術文献】

【特許文献】

【 0 0 0 4 】

【文献】特開 2 0 1 8 - 5 1 1 1 9 号公報

10

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【 0 0 0 5 】

しかしながら、壁面に対して傾斜させて浴室カウンターを取り付けると、近傍に設置される浴槽に対しても浴室カウンターが傾斜することになり、見栄えがよくないという問題があった。

【 0 0 0 6 】

そこで、本発明は、上記事情を鑑みてなされたものであり、見栄え良く配置するとともに、確実に排水可能な浴室カウンターを提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

20

【 0 0 0 7 】

本発明に係る浴室カウンターは、カウンター本体に物品を載置可能な載置面を備えた浴室カウンターであって、前記載置面内に排水孔が形成され、前記カウンター本体の周縁部から前記排水孔に向かって前記載置面が下り傾斜しており、壁面に取り付けられた状態で、前記カウンター本体の周縁部の頂部が水平に保持されており、前記カウンター本体が前記壁面に対して着脱可能に構成され、浴室内に、前記排水孔と嵌合可能に構成されたブラケットを備えていることを特徴としている。

【 0 0 0 8 】

この発明によれば、カウンター本体の載置面内に排水孔を形成し、周縁部から排水孔に向かって下り傾斜しているため、載置面上の水を排水孔に向かって案内させることができ、確実に排水させることができる。また、浴室カウンターを壁面に取り付けた状態で、カウンター本体の周縁部の頂部が水平になるように構成したため、例えば、浴室カウンターの近傍に配置された浴槽の上面や浴槽とエプロンとの境界線に対して、カウンター本体の周縁部の頂部が平行になるため、見栄えを良くすることができる。

30

【 0 0 1 0 】

この発明によれば、カウンター本体が壁面に対して着脱可能に構成され、取り外したカウンター本体はブラケットに排水孔を利用して嵌合できるため、収納状態（カウンター未使用状態）においても、カウンター本体をブラケットで安定支持できる。また、カウンター本体をブラケットと嵌合させて保持するため、収納状態のカウンター本体が動くことを防止できる。その結果、カウンター本体あるいはブラケットの取付位置周辺に傷がつくことを防止できる。

40

また、カウンター本体がブラケットに対して着脱可能に嵌合されるため、ビス等の固定具が不要となる。その結果、カウンター本体をブラケットに対して容易に着脱可能とすることができる。

【 0 0 1 1 】

さらに、本発明に係る浴室カウンターは、前記ブラケットが前記壁面に設けられ、前記載置面が上方に向いた使用状態で前記カウンター本体を支持可能に構成されていてもよい。

【 0 0 1 2 】

この発明によれば、浴室カウンターを使用状態および収納状態で保持（支持嵌合）するブラケットを共通化することができる。その結果、浴室内に取り付けるブラケットの数を

50

抑えられるため、部品点数低減及び施工工数の低減によりコストを抑えられる。

また、浴室カウンターが使用状態あるいは収納状態にあるときに、使用されないブラケットが外観上露出することがないため、浴室内の外観意匠性を高めることができる。

【発明の効果】

【0013】

本発明は、見栄え良く配置するとともに、確実に排水可能な浴室カウンターを提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【0014】

【図1】本発明の一実施形態に係る浴室カウンターを備える浴室ユニットの浴室カウンターの使用状態を示す斜視図である。

10

【図2】本発明の一実施形態に係る浴室カウンターを備える浴室ユニットの浴室カウンターの収納状態を示す斜視図である。

【図3】本発明の一実施形態の浴室カウンターの収納状態の側面図である。

【図4】本発明の一実施形態の浴室カウンターをブラケットに取り付ける態様(収納状態)を示す斜視図である。

【図5】本発明の一実施形態のブラケットの側面図である。

【図6】本発明の一実施形態のカウンター本体の裏面側からの斜視図である。

【図7】本発明の一実施形態のカウンター本体の裏面側の平面図である。

【図8】本発明の一実施形態のカウンター本体をブラケットに取り付ける態様(使用状態)を示す斜視図である。

20

【図9】本発明の一実施形態の浴室カウンターの収納状態の縦断面図である。

【図10】本発明の一実施形態の浴室カウンターの使用状態の縦断面図である。

【図11】本発明の一実施形態のカウンター本体の表面側の平面図である。

【発明を実施するための形態】

【0015】

以下、本発明の一実施形態に係る浴室カウンターについて説明する。図1及び図2は、本実施形態に係る浴室カウンター1を備える浴室ユニット100の斜視図である。図1は、浴室カウンター1の使用状態を示す斜視図であり、図2は浴室カウンター1の収納状態を示す斜視図である。また、図3は、本実施形態の浴室カウンターの収納状態を示す側面図(一部断面図)である。

30

【0016】

図1～図3に示すように、本実施形態に係る浴室カウンター1は、カウンター本体2と、ブラケット3とを備え、カウンター本体2がブラケット3に着脱可能に保持される。換言すると、浴室カウンター1は、浴室空間BRの第一壁部103に対して着脱可能に構成されたカウンター本体2を備えている。以下では、浴室カウンター1を用いた浴室ユニット100を例に説明する。なお、浴室カウンター1は浴室ユニット100に限らず、在来工法により施工された浴室においても適用可能である。

【0017】

浴室ユニット100は、建物の躯体内にフレームとパネルとを用いて、床、壁、天井及び浴槽等を組み立てて設置されている。浴室ユニット100内に形成される浴室空間BR(浴室)には、外枠形状が平面視で略長方形の浴槽101と、平面視略矩形であり、浴槽101と壁との間の床部を構成する洗い場(床面)102と、が設けられている。浴槽101の洗い場102との境界部分となる端部には、浴槽101の側面を覆うエプロン105が設けられ、洗い場102と浴槽101とは、エプロン105を介して接続されている。浴室空間BRは、四方に立設された複数の壁部により形成されている。

40

【0018】

本実施形態では、浴室ユニット100の複数の壁部のうち、シャワー器具109、水栓110、シャワーホルダ107が設けられた壁を第一壁部103と称する。また、浴槽101のエプロン105の表面は、第一壁部103と直交して配置されている。

50

【 0 0 1 9 】

以下の説明において、第一壁部 1 0 3 の壁面に沿った水平方向を幅方向、幅方向に直交する水平方向を奥行方向とする。奥行方向のうち第一壁部 1 0 3 に近接する方向を奥行方向の奥側とし、第一壁部 1 0 3 と離間する方向を奥行方向の手前側とする。第一壁部 1 0 3 の幅方向のうち、使用者が第一壁部 1 0 3 に向かって立つ場合の左右をそれぞれ左側、右側と称する。本実施形態では、幅方向の左側に浴槽 1 0 1 が配置され、右側に洗い場 1 0 2 が配置されている。

【 0 0 2 0 】

図 1 及び図 2 に示すように、カウンター本体 2 は、第一壁部 1 0 3 に取り付けられた後述するブラケット 3 に対して着脱可能に構成されている。本実施形態では、第一壁部 1 0 3 の水栓 1 1 0 の下方、かつ、洗い場 1 0 2 の床面から上方に離間した位置に、カウンター本体 2 (浴室カウンター 1) が取り付けられている。

10

【 0 0 2 1 】

本実施形態に係る浴室カウンター 1 は、第一壁部 1 0 3 に対して着脱可能なカウンター本体 2 をブラケット 3 から取り外した際に、カウンター本体 2 を収納状態で保持する構造を備えている。なお、図 1 に示すように、天板 (載置面) 4 1 を上方に向けて配置してブラケット 3 に支持された状態をカウンター本体 2 (浴室カウンター 1) の使用状態と称する。使用状態では、天板 4 1 は上方 (天井側) を向いて第一壁部 1 0 3 から水平方向に突出して配置される。一方、図 2 に示すように、カウンター本体 2 の天板 4 1 が水平方向に向いて配置されて保持される状態を収納状態と称する。

20

【 0 0 2 2 】

カウンター本体 2 の構成について、使用状態の配置に基づき説明する。図 8 に示すように、カウンター本体 2 は、物品を載置可能な天板 4 1 を備える略平板状の部材である。カウンター本体 2 は、使用状態において上側に配置される天板部材 4 と、下側に配置される底板部材 5 と、を有し、天板部材 4 と底板部材 5 とが接合されて構成されている。天板部材 4 および底板部材 5 は、それぞれ樹脂材料により形成されている。

【 0 0 2 3 】

図 3 ~ 図 5 に示すように、ブラケット 3 は、第一壁部 1 0 3 に取り付けられている。ブラケット 3 は、金属製のネジ (不図示) などにより第一壁部 1 0 3 に固定され、樹脂部材によりネジが覆われている。ブラケット 3 は、第一壁部 1 0 3 側に配されたベース部材 3 1 と、カウンター本体 2 が嵌合されるアーム部材 3 2 と、を備える。ベース部材 3 1 は、幅方向に長尺な部材であり、裏面 3 1 1 が第一壁部 1 0 3 に当接して固定されている。

30

【 0 0 2 4 】

ベース部材 3 1 の表面側 (手前側) にアーム部材 3 2 が配設されている。アーム部材 3 2 は、ベース部材 3 1 の表面を覆うように構成された表面部 3 2 0 を備えている。表面部 3 2 0 は、上部が上下方向に延びる (水平方向を向く) 平面形状であり、下部は下端側に向かって次第にわずかに奥側に傾斜する傾斜面が形成されている。表面部 3 2 0 の幅方向両端部は、ベース部材 3 1 より幅方向外側に僅かに突出する突出縁 3 2 0 a , 3 2 0 a を有している。

【 0 0 2 5 】

40

また、アーム部材 3 2 は、平面視略 U 字形状を有し、表面部 3 2 0 から手前側に向かって略水平方向に突出した一对の基部 3 2 1 , 3 2 1 と、該一对の基部 3 2 1 , 3 2 1 間を架設するバー 3 2 2 と、を有している。表面部 3 2 0 の幅方向に離間した位置に、一对の基部 3 2 1 , 3 2 1 が設けられ、それぞれ表面部 3 2 0 から手前側に突出している。各基部 3 2 1 , 3 2 1 の手前側の端部間にバー 3 2 2 が架設されている。つまり、一对の基部 3 2 1 , 3 2 1 およびバー 3 2 2 が、表面部 3 2 0 から突起状に突出形成されたアーム部 (突起) 3 2 5 を構成している。バー 3 2 2 は、表面部 3 2 0 と略平行に延設されている。バー 3 2 2 の手前側の端面は長楕円形状を有している。バー 3 2 2 の表面には、化粧パネル 3 2 3 が取り付けられている (図 9 参照)。一对の基部 3 2 1 , 3 2 1 の幅方向外側の各端部には、幅方向に突出する突起 3 4 , 3 4 がそれぞれに形成されている。

50

【 0 0 2 6 】

アーム部材 3 2 における、表面部 3 2 0 とアーム部 3 2 5 とで囲まれた領域に、係合孔 3 3 が形成されている。係合孔 3 3 は上下方向に貫通している。

【 0 0 2 7 】

係合孔 3 3 の奥側で表面部 3 2 0 の上部には、ベース部材 3 1 の上面 3 1 3 よりも上方に突出する突出壁 3 2 4 が形成されている。突出壁 3 2 4 は、アーム部材 3 2 の表面部 3 2 0 に沿って上方に延出するように突出している。突出壁 3 2 4 の左右上端部は幅方向外側に向かって下側になだらかに傾斜している。

【 0 0 2 8 】

なお、図 9 に示すように、ブラケット 3 の第一壁部 1 0 3 からの突出長 L 2 は、水栓 1 1 0 の第一壁部 1 0 3 からの突出長 L 3 よりも短くなるように、ブラケット 3 の大きさが設定されている。

【 0 0 2 9 】

カウンター本体 2 の構造について、さらに詳細に説明する。カウンター本体 2 は、ブラケット 3 を介して浴室空間 B R の第一壁部 1 0 3 に対して着脱可能に構成されている。図 6 は、カウンター本体 2 の底板部材 5 側から見た斜視図である。図 7 は、カウンター本体 2 の裏面側の（底板部材 5 側から見た）平面図である。図 1 0 は、カウンター本体 2（浴室カウンター 1）の使用状態を示す縦断面図である。図 1 1 は、カウンター本体 2 の表面側の（天板部材 4 側から見た）平面図である。

【 0 0 3 0 】

図 6、図 7、図 1 0、図 1 1 に示すように、カウンター本体 2 は、厚さ方向から見た平面視における形状が略長方形であり、4 つの角部は円弧形状を有する。天板部材 4 と底板部材 5 とは周縁部同士が接合されている。天板部材 4 の周縁部には、厚さ方向（上下方向）に厚みを有する外周側壁 2 3 が形成されている。外周側壁 2 3 は、略平面状の壁部である。

【 0 0 3 1 】

カウンター本体 2 は、使用状態における手前側と奥側に 2 つの長辺端部 2 1, 2 2 を備え、該 2 つの長辺端部 2 1, 2 2 のうちの一方の長辺端部 2 2 側でブラケット 3 に係合され、第一壁部 1 0 3 から手前側に向かって突出して配置されている。2 つの長辺端部 2 1, 2 2 のうち、使用状態において手前側に位置する長辺端部を第一長辺端部 2 1 と称し、奥側に位置する長辺端部を第二長辺端部 2 2 と称する。

【 0 0 3 2 】

カウンター本体 2 には、厚さ方向に貫通する排水孔 2 4 が形成されている。排水孔 2 4 は、第一長辺端部 2 1 の近傍であって、第一長辺端部 2 1 よりも奥側に形成されている。排水孔 2 4 は、第一長辺端部 2 1 と略平行に延びる長孔である。排水孔 2 4 の幅方向の両端部は、円弧状に形成されている。

【 0 0 3 3 】

図 1 0 に示すように、天板部材 4 及び底板部材 5 に、排水孔 2 4 の形状に倣う貫通孔 4 4 0, 5 4 0 がそれぞれ形成されている。各貫通孔 4 4 0, 5 4 0 の周縁には、カウンター本体 2 の厚さ方向に立設されたリブ 4 4 1, 5 4 1 が形成されている。天板部材 4 と底板部材 5 とが接合されると、リブ 4 4 1, 5 4 1 同士が嵌合し、排水孔 2 4 が形成される。排水孔 2 4 が形成されることにより、天板部材 4 と底板部材 5 との間に形成されるカウンター本体 2 の内部空間への水の浸入が防止される構造になっている。

【 0 0 3 4 】

図 1 0、図 1 1 に示すように、天板部材 4 の天板 4 1 は略扁平に形成されている。天板 4 1 は、カウンター本体 2 の周縁部 2 5 から排水孔 2 4 に向かって僅かに下降傾斜している（図 1 1 の矢印方向に下降傾斜）。すなわち、天板 4 1 の上面（載置面）は、排水孔 2 4 の縁部の高さが最も低く、カウンター本体 2 の周縁部 2 5 から排水孔 2 4 に向かって緩やかに下降傾斜して形成されている。ただし、天板 4 1 の傾斜角度は、天板 4 1 上の水が排水孔 2 4 に向かって流れ、物品を載置した際に、物品が自重で傾斜に沿って移動しない

10

20

30

40

50

程度の僅かな傾斜に設定されている。

【 0 0 3 5 】

さらに、本実施形態の天板 4 1 の使用状態における周縁部 2 5 の頂部（上端）2 5 a が、水平に保持されるように構成されている。つまり、天板 4 1 の周縁部 2 5 の頂部 2 5 a が同一平面上に位置するように構成されるとともに、使用状態において、第一壁部 1 0 3 に対して略垂直方向（水平方向）に周縁部 2 5 の頂部 2 5 a が位置するように構成されている。このように構成することで、例えば、浴室カウンター 1 の近傍に配置された浴槽 1 0 1 の上面 1 0 1 a や浴槽 1 0 1 とエプロン 1 0 5 との境界線 1 0 6 と、カウンター本体 2 の周縁部 2 5 の頂部 2 5 a と、が平行になるため、見栄えを良くすることができる。

【 0 0 3 6 】

図 8、図 1 0 に示すように、底板 5 1 は、幅方向（長辺方向）の中央部において、第一長辺端部 2 1 から第二長辺端部 2 2 に向かって下方に傾斜した傾斜面を備えている。

【 0 0 3 7 】

底板 5 1 の第二長辺端部 2 2 側の領域に被係合部 5 2 が形成されている。被係合部 5 2 は、第二長辺端部 2 2 の幅方向略中央部、かつ第二長辺端部 2 2 側の外周側壁 2 3 より下方に形成されている。底板 5 1 の被係合部 5 2 は、内側凹部 5 5 と、外側凹部 5 6 と、突条部 5 3 と、挿入穴 5 4 と、を有している。

【 0 0 3 8 】

内側凹部 5 5 は、底板 5 1 の幅方向略中央部に略矩形に形成された凹部である。内側凹部 5 5 の幅方向の長さは、排水孔 2 4 の幅方向の長さと同程度の長さである。また、内側凹部 5 5 の左右の側壁 5 5 1、5 5 1 間の距離は、ブラケット 3 のバー 3 2 2 の幅方向の寸法よりも僅かに大きい。図 6 に示すように、各側壁 5 5 1、5 5 1 には、係止凸部 5 7、5 7 が形成されている。係止凸部 5 7、5 7 は、それぞれ幅方向の中央側に向かって突出し、かつ奥行方向に延びる長尺な突起である。

【 0 0 3 9 】

内側凹部 5 5 の第二長辺端部 2 2 側の端部に、突条部 5 3 が形成されている。突条部 5 3 は、略直方体形状であり、内側凹部 5 5 の底部 5 5 3 から下方に突出して形成されている。突条部 5 3 は、ブラケット 3 の係合孔 3 3 の平面視内周形状と略同一の平面形状を有する。また、突条部 5 3 の高さは、底板 5 1 の表面形状に倣う（稜線を揃えた）高さになるように設定されている。

【 0 0 4 0 】

外側凹部 5 6 は、内側凹部 5 5 と第二長辺端部 2 2 との間に形成された凹部である。外側凹部 5 6 は、内側凹部 5 5 と連続して形成され、幅方向に長尺な略矩形の凹部である。外側凹部 5 6 は、内側凹部 5 5 よりも幅方向の開口寸法が長い。外側凹部 5 6 の幅方向の寸法は、ブラケット 3 の表面部 3 2 0 の幅方向の寸法よりも僅かに長い。

【 0 0 4 1 】

挿入穴 5 4 は、外側凹部 5 6 の底部 5 6 1 の幅方向中央部に、さらに窪むように形成されている。挿入穴 5 4 は、突条部 5 3 の奥側に隣接する位置に形成されている。挿入穴 5 4 は、ブラケット 3 の突出壁 3 2 4 の形状と略同一の形状を有する。

【 0 0 4 2 】

外側凹部 5 6 の幅方向の左右の側壁 5 6 2、5 6 2 には、幅方向外側に窪むスリット 5 6 3、5 6 3 がそれぞれ形成されている。スリット 5 6 3 は、側壁 5 6 2 の高さ方向略全長に亘って形成されている。また、スリット 5 6 3 は、側壁 5 6 2 の手前側端部に形成されている。

【 0 0 4 3 】

次に、カウンター本体 2 とブラケット 3 との係合構造について説明する。カウンター本体 2 は、使用状態と収納状態でそれぞれブラケット 3 に係合可能に構成されている。まず、使用状態におけるカウンター本体 2 とブラケット 3 との係合構造について説明する。

【 0 0 4 4 】

図 8 は、使用状態におけるカウンター本体 2 をブラケット 3 へ取り付けの態様を示す斜

10

20

30

40

50

視図である。図 8 に示すように、カウンター本体 2 の天板 4 1 を上方に向けて、底板 5 1 の被係合部 5 2 をブラケット 3 に上方から近付け、突条部 5 3 を係合孔 3 3 に挿入し、挿入穴 5 4 に突出壁 3 2 4 を挿入する。

【 0 0 4 5 】

突条部 5 3 は、アーム部材 3 2 の係合孔 3 3 の平面視形状と相似し、内側凹部 5 5 の側壁 5 5 1 , 5 5 1 間の距離はブラケット 3 の一對の基部 3 2 1 , 3 2 1 間 (アーム部 3 2 5) の幅方向の寸法よりも僅かに大きいため、図 1 0 に示すように、アーム部材 3 2 と被係合部 5 2 とが係合する。また、内側凹部 5 5 の手前側壁部 5 5 2 と突条部 5 3 とにより、アーム部材 3 2 のバー 3 2 2 が挟持される。さらに、突条部 5 3 の奥側壁 5 3 1 がブラケット 3 の表面部 3 2 0 に当接する。この結果、カウンター本体 2 の上方からの力に対して十分な耐荷重を備えて、カウンター本体 2 を使用状態で支持できる。

10

【 0 0 4 6 】

アーム部材 3 2 と被係合部 5 2 との係合時、内側凹部 5 5 の各側壁 5 5 1 , 5 5 1 に形成された係止凸部 5 7 , 5 7 がアーム部材 3 2 の基部 3 2 1 , 3 2 1 の突起 3 4 , 3 4 を乗り越え、係止凸部 5 7 , 5 7 が突起 3 4 , 3 4 に係止される。さらに、外側凹部 5 6 のスリット 5 6 3 , 5 6 3 に表面部 3 2 0 の突出縁 3 2 0 a , 3 2 0 a が挿入される。結果として、カウンター本体 2 は、ブラケット 3 に対して確実に位置決めした状態で係合される。

【 0 0 4 7 】

使用状態におけるカウンター本体 2 の支持構造が、上述の構成を備える結果、カウンター本体 2 はブラケット 3 の上方から近付けて、被係合部 5 2 とアーム部材 3 2 とを係合させる簡易な構成で、カウンター本体 2 をブラケット 3 に着脱可能に係合 (支持) させることができる。つまり、ネジ等の固定部材を用いることなく、カウンター本体 2 をブラケット 3 に係合できる。また、カウンター本体 2 の使用中に上方向へ不慮の力が加わった場合でも、カウンター本体 2 がブラケット 3 から外れ難い。

20

【 0 0 4 8 】

一方、カウンター本体 2 をブラケット 3 から取り外す場合は、使用者がカウンター本体 2 を把持しながら上方に持ち上げると、係止凸部 5 7 , 5 7 が突起 3 4 , 3 4 の上方へ乗り越えて被係合部 5 2 とブラケット 3 との係合が解除可能となり、カウンター本体 2 をブラケット 3 から取り外すことができる。

【 0 0 4 9 】

30

一般に、浴室カウンターは、天板 4 1 上に洗面器 (不図示) などを載置して、水栓 1 1 0 やシャワー器具 1 0 9 からの吐水を溜める場合等の使用を想定している。本実施形態においても、水栓 1 1 0 の下方にカウンター本体 2 が使用状態で取り付けられると、第一壁部 1 0 3 からカウンター本体 2 の第一長辺端部 2 1 までの水平方向の寸法 L 1 (図 1 0 参照) が水栓 1 1 0 の第一壁部 1 0 3 からの水平方向の突出寸法 L 3 (図 9 参照) よりも長くなるように、カウンター本体 2 の奥行方向の寸法が設定されている。

【 0 0 5 0 】

次に、収納状態におけるカウンター本体 2 とブラケット 3 との係合構造について説明する。図 4 は、カウンター本体 2 をブラケット 3 に取り付ける態様 (収納状態) を示す斜視図である。図 9 は、カウンター本体 2 の収納状態を示す縦断面図である。

40

【 0 0 5 1 】

図 4、図 9 に示すように、収納状態では、天板 4 1 の向きを使用状態と異なる向きに配置してブラケット 3 に保持する。使用状態のカウンター本体 2 をブラケット 3 から取り外した後、天板 4 1 を水平方向に向け、底板 5 1 側をブラケット 3 に対向させ、該ブラケット 3 に近付ける。このとき、第一長辺端部 2 1 が上側となるように配置し、排水孔 2 4 をブラケット 3 のアーム部 3 2 5 に近付ける。排水孔 2 4 の平面視開口形状は、アーム部材 3 2 のバー 3 2 2 の正面視形状と略同一に形成され、排水孔 2 4 の開口寸法がバー 3 2 2 の正面視形状よりもわずかに大きい。したがって、底板 5 1 側をアーム部材 3 2 に対して奥行方向に近付けると、排水孔 2 4 内にアーム部材 3 2 のアーム部 3 2 5 が挿入可能となり、アーム部 3 2 5 が排水孔 2 4 に係止される。この結果、カウンター本体 2 は、アーム

50

部材 3 2 に係止された状態で支持され、カウンター本体 2 がブラケット 3 に収納状態で保持される。なお、図 9 に示すように、底板 5 1 の第二長辺端部 2 2 側の端部領域 5 9 が第一壁部 1 0 3 に当接するように構成すると、カウンター本体 2 が上下方向の 2 か所で第一壁部 1 0 3 に支持されるため、カウンター本体 2 が収納状態で安定的に保持される。

【 0 0 5 2 】

図 9 に示すように、収納状態では、カウンター本体 2 の天板 4 1 とブラケット 3 のアーム部 3 2 5 の表面（化粧パネル 3 2 3 の表面）とが上下方向に略面一な状態で配置される。この結果、収納状態において、洗い場 1 0 2 におけるカウンター本体 2 の収納スペースを抑えることができ、洗い場 1 0 2 を広く使用できる。

【 0 0 5 3 】

また、収納状態では、カウンター本体 2 の第一壁部 1 0 3 から天板 4 1 までの水平方向の寸法 L 2（図 9 参照）は、水栓 1 1 0 の第一壁部 1 0 3 からの水平方向の突出寸法 L 3 よりも短くなるように設定されている。その結果、着脱可能なカウンター本体 2 を使用しない場合に、使用者の動線を妨げない位置でカウンター本体 2 を収納保持できる。

【 0 0 5 4 】

図 2、図 3 及び図 9 に示すように、収納状態では、カウンター本体 2 の排水孔 2 4 がブラケット 3 に係合された状態で、カウンター本体 2 の外周側壁 2 3 の全周（天板 4 1 の周縁全周）が第一壁部 1 0 3 及び床面 1 0 2 から離間した位置でブラケット 3 に保持されている。その結果、収納状態のカウンター本体 2 の全周（外周側壁 2 3）を容易に清掃できる。さらに、収納状態では、カウンター本体 2 を浴室 B R の床面 1 0 2 から上方に離間した位置で保持できる。その結果、清掃時に、作業者がカウンター本体 2 を持ちながら作業する必要がなく、容易に清掃できる。

【 0 0 5 5 】

本実施形態に係る浴室カウンター 1 によれば、カウンター本体 2 の天板（載置面）4 1 に排水孔 2 4 を形成し、周縁部 2 5 から排水孔 2 4 に向かって下り傾斜しているため、載置面上の水を排水孔 2 4 に向かって案内させることができ、確実に排水させることができる。また、浴室カウンター 1（カウンター本体 2）を第一壁部 1 0 3 に取り付けた状態で、カウンター本体 2 の周縁部 2 5 の頂部 2 5 a が水平になるように構成したため、例えば、浴室カウンター 1 の近傍に配置された浴槽 1 0 1 の上面 1 0 1 a や浴槽 1 0 1 とエプロン 1 0 5 との境界線 1 0 6 に対して、カウンター本体 2 の周縁部 2 5 の頂部 2 5 a のラインが平行になるため、見栄えを良くすることができる。

【 0 0 5 6 】

また、本実施形態に係る浴室カウンター 1 によれば、カウンター本体 2 がブラケット 3 に対して着脱可能に構成され、取り外したカウンター本体 2 は、ブラケット 3 に形成されたアーム部（突起）3 2 5 に排水孔 2 4 を嵌合できるため、収納状態（カウンター未使用状態）においても、カウンター本体 2 をブラケット 3 で安定支持できる。また、カウンター本体 2 をブラケット 3 と嵌合させて保持するため、収納状態のカウンター本体 2 が動くことを防止できる。その結果、カウンター本体 2 あるいはブラケット 3 の取付位置周辺に傷がつくことを防止できる。

【 0 0 5 7 】

また、カウンター本体 2 がブラケット 3 に対して着脱可能に嵌合されるため、ビス等の固定具が不要となる。その結果、カウンター本体 2 をブラケット 3 に対して容易に着脱可能とすることができる。

【 0 0 5 8 】

さらに、ブラケット 3 にカウンター本体 2 の排水孔 2 4 と嵌合するアーム部（突起）3 2 5 を形成したため、浴室カウンター 1 を使用状態および収納状態で保持するブラケット 3 を共通化することができる。その結果、浴室 B R 内に取り付けるブラケット 3 の数を抑えられるため、部品点数低減及び施工工数の低減によりコストを抑えられる。

【 0 0 5 9 】

そして、浴室カウンター 1 が使用状態あるいは収納状態にあるときに、使用されないブ

10

20

30

40

50

ラケット 3 が外観上露出することがないため、浴室 B R 内の外観意匠性を高めることができる。

【 0 0 6 0 】

以上、本発明の実施形態について図面を参照して詳述したが、具体的な構成はこの実施形態に限られるものではなく、本発明の要旨を逸脱しない範囲の設計変更等も含まれる。

また、上述の実施形態及び各変形例において示した構成要素は適宜に組み合わせて構成することが可能である。

【 0 0 6 1 】

例えば、上述の実施形態のブラケット 3 に加えて、カウンター本体 2 の収納用のブラケットを別途設けてもよい。また、カウンター本体 2 を水栓 1 1 0 等の下方以外の場所に保持してもよい。

10

【 0 0 6 2 】

また、本実施形態では、カウンター本体 2 は着脱可能である場合の説明を行ったが、壁部に固定する浴室カウンターであってもよい。

また、本実施形態では、カウンター本体 2 に排水孔 2 4 が一つ形成された場合の説明をしたが、排水孔の個数や形状について特に限定する必要はない。

【 符号の説明 】

【 0 0 6 3 】

- 1 浴室カウンター
- 2 カウンター本体
- 3 ブラケット
- 2 4 排水孔
- 2 5 周縁部
- 2 5 a 頂部
- 4 1 天板（載置面）
- 1 0 3 第一壁部（壁面）
- 3 2 5 アーム部（突起）

20

30

40

50

【図面】

【 図 1 】

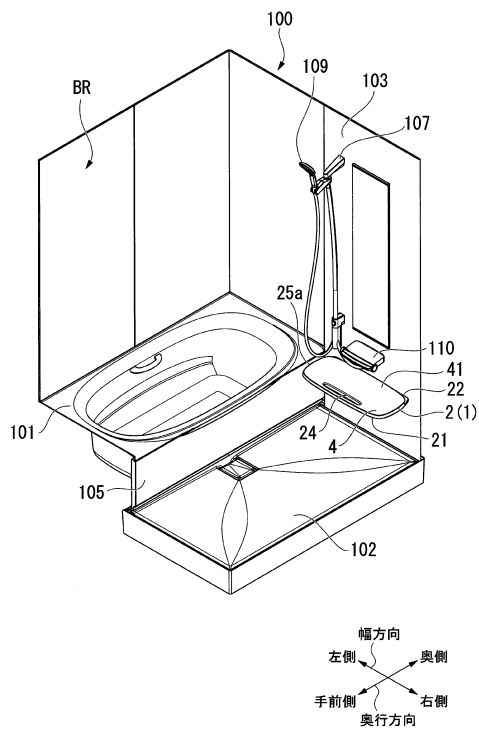


図 1

【 図 2 】

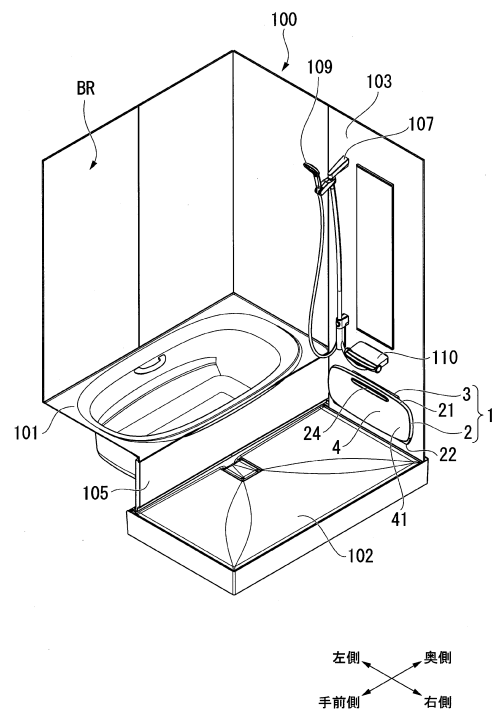


图 2

【 図 3 】

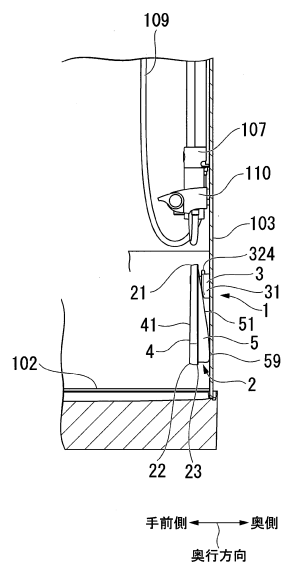


图 3

【 図 4 】

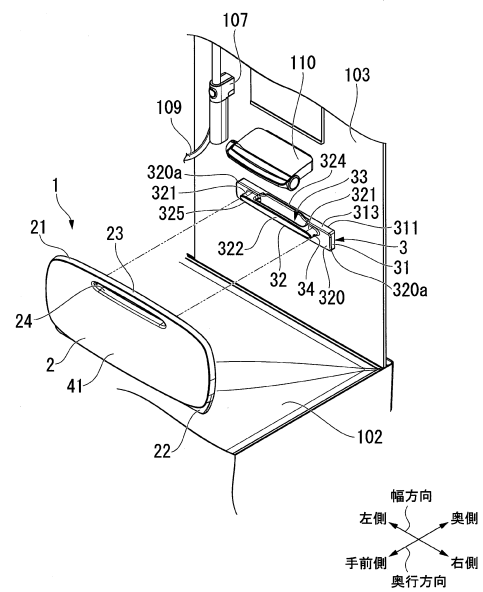
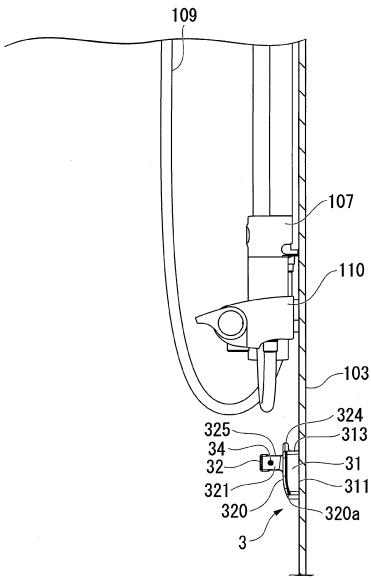


图 4

【図 5】



手前側 ← → 奥側

図 5

【図 6】

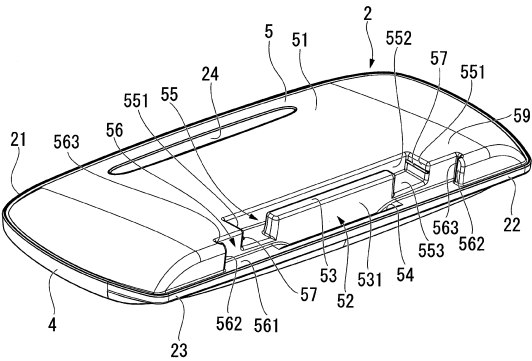


図 6

【図 7】

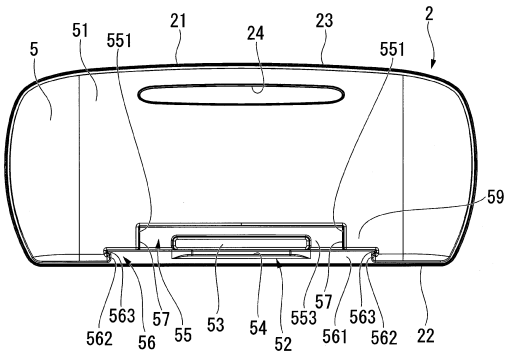


図 7

【図 8】

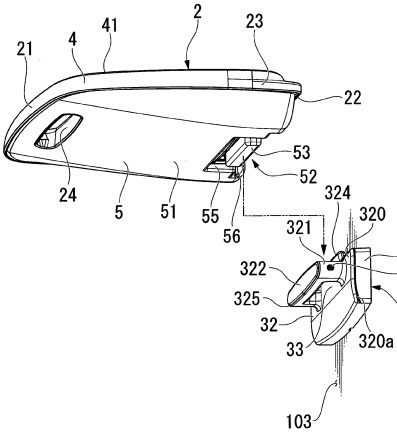


図 8

10

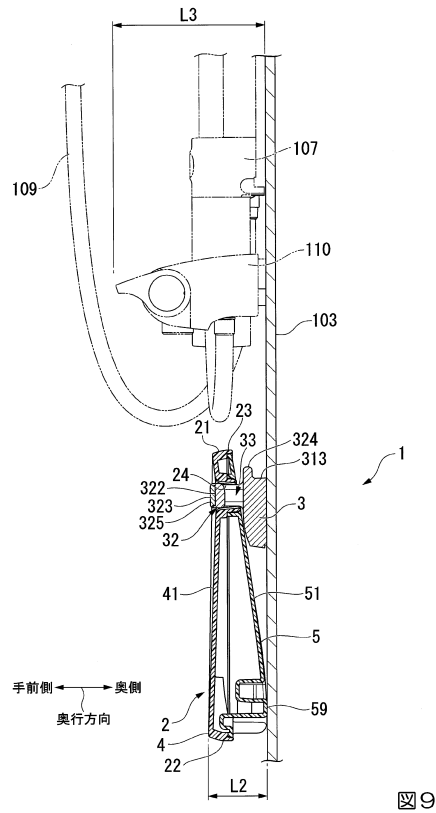
20

30

40

50

【図 9】



【図 10】

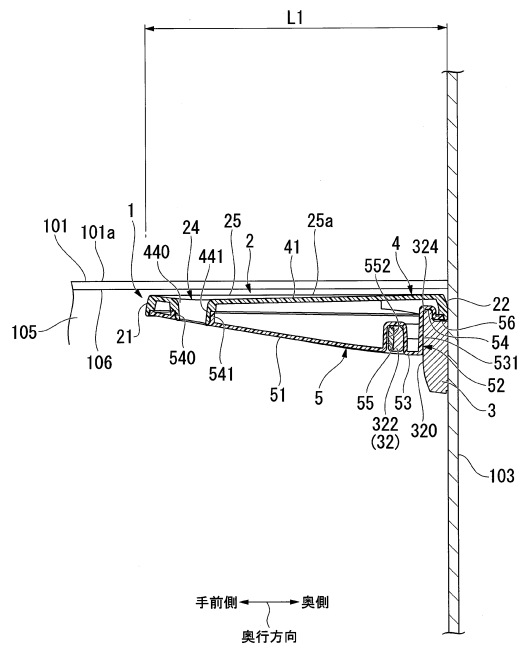


図10

【図 11】

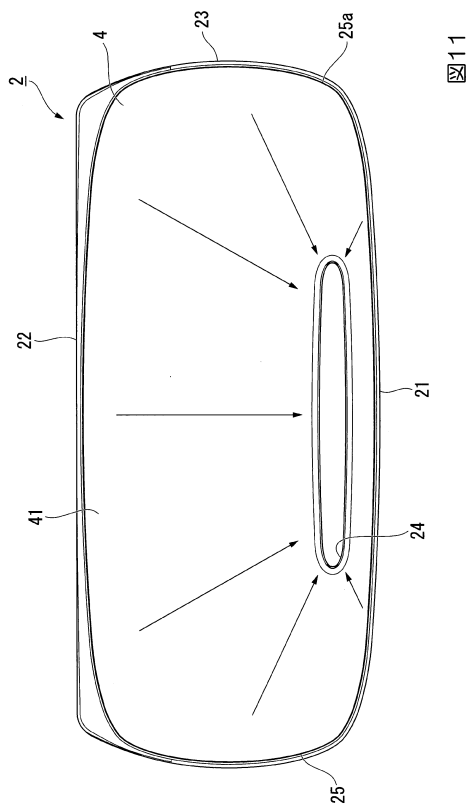


図11

フロントページの続き

会社 L I X I L 内
(72)発明者 澤 崎 美紀子
東京都江東区大島二丁目 1 番 1 号 株式会社 L I X I L 内
(72)発明者 井口 隆磨
東京都江東区大島二丁目 1 番 1 号 株式会社 L I X I L 内
審査官 広瀬 杏奈
(56)参考文献 特開 2 0 0 9 - 1 0 6 3 6 1 (J P , A)
特開 2 0 0 5 - 2 2 4 5 4 0 (J P , A)
特開平 1 1 - 1 1 3 7 7 8 (J P , A)
特開 2 0 1 8 - 0 5 1 1 2 0 (J P , A)
(58)調査した分野 (Int.Cl. , D B 名)
A 4 7 K 4 / 0 0